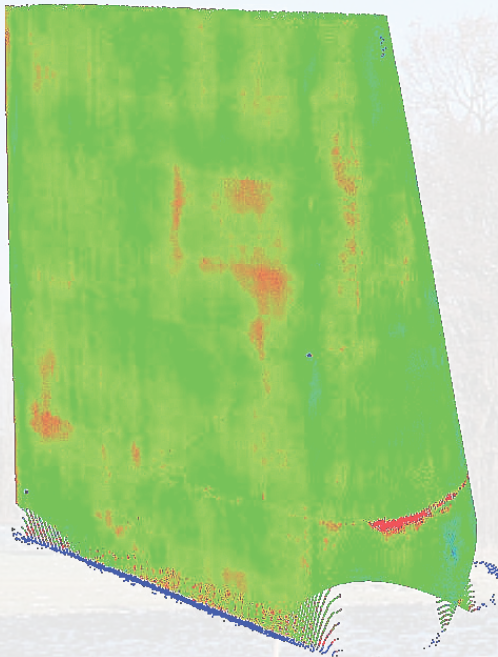
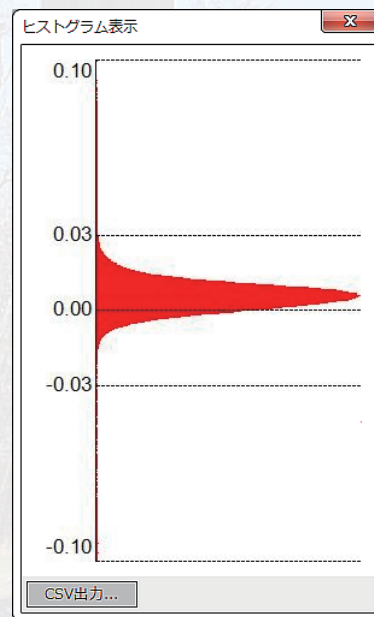




小判型橋脚での計算例



対応構造物

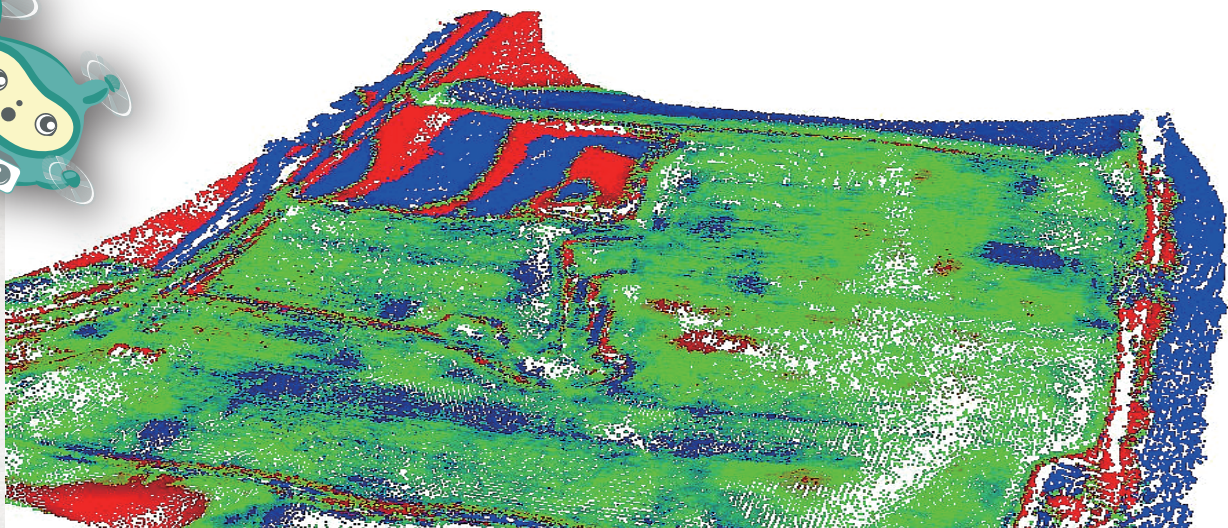
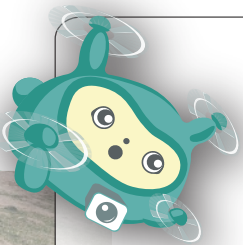
- ピア 小判型 / 角型
- アバット 角型 (複雑な形状のものは後日対応予定)
- ※これらについては、斜壁・直壁どちらも可能です。
- 下水道 大口径円管 / ボックスカルバート

工事施工前後を計測して出来高管理の計算を行ないます。

面造成での高さのヒートマップだけでなく、**構造物の厚さについてのヒートマップにも対応!**

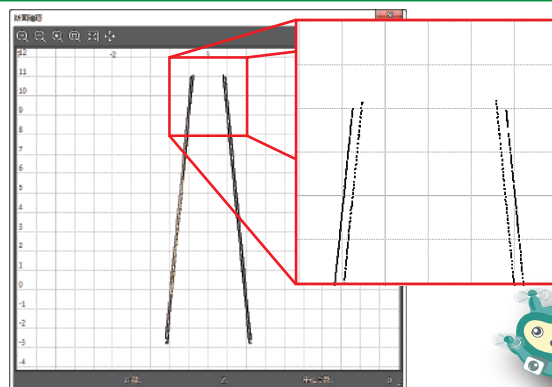
この結果を 3DPDF ファイルに書き出す事が出来ます。(弊社 PDF3D コンバータを使用)

P D F ファイルは**役所のパソコン**で **3D 表示**の**閲覧が可能**です!



面造成での計算例

断面確認



実際は左図のような施工前後のデータを読み込んで断面確認をすると、右図のように施工前と施工後の差が断面確認で確認できます。

比較計算

比較計算は構造物データでも地形データでも対応。

比較計算

基準厚:

0.10 m

最大厚:

0.45 m

法線計算範囲:

0.10 m

計算タイプ:

☒ 構造物
 ☐ 地形

実行

キャンセル

ヒートマップ

ヒートマップ表示の設定です。

ヒートマップ設定

スタイル:

☒ グラデーション
 ☐ 色分け

+最大厚:

0.10 m

+許容厚:

0.03 m

-許容厚:

0.03 m

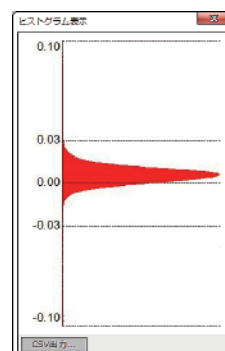
-最大厚:

0.10 m

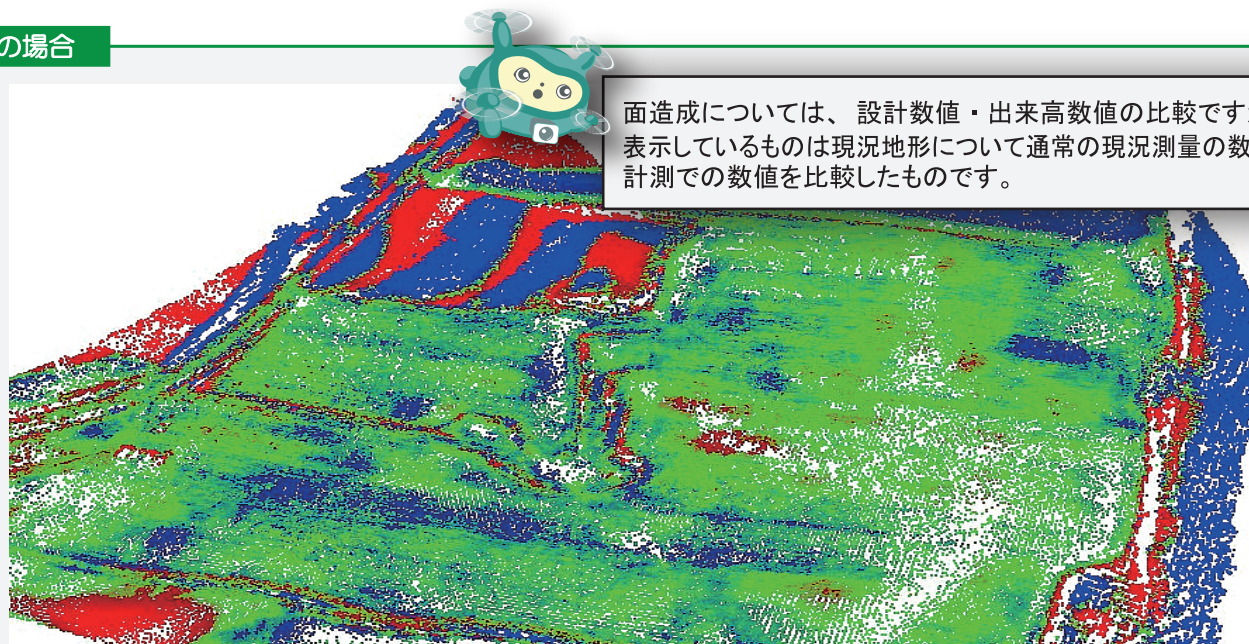
OK

キャンセル

ヒストグラム表示



造成面の場合



面造成については、設計数値・出来高数値の比較ですが、今回表示しているものは現況地形について通常の現況測量の数値とUAV計測での数値を比較したものです。

動作環境

OS Microsoft® Windows10 / Windows8/8.1 / Windows7 (各 OS 全て日本語版 64bit)

プロセッサ Intel Core i5 以上または AMD A10 以上推奨

記憶媒体 (内臓 SSD+HDD) 2TB 以上 または HDD 2TB 以上推奨

メモリー 16GB 以上推奨

グラフィックボード オンボード以上推奨

ディスプレイ 1024×768 以上の解像度推奨

※インストール時に CD-ROM ドライブを使用します。 ※USB プロテクター用に USB 規格 1.1 準拠のポートを 1 つ使用します。

※Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国またはその関連会社の商標です。 ※Microsoft .NET Framework Ver4.6.1 を使用しています。

※インテルおよび Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。 ※AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。



URL www.miraisystem.jp/
株式会社 未来システム工房

本社 〒065-0022 北海道札幌市東区北 22 条東 3 丁目 1-35
ハイテクビル・さっぽろ 141



Tel 011-792-5211 Fax 011-792-5555

静岡営業所 〒421-1215 静岡県静岡市葵区羽鳥 5 丁目 14-37

新横浜オフィス 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 3 丁目 7-18

エクスパートオフィス新横浜 722

大阪オフィス 〒533-0014 大阪府大阪市東淀川区豊新 3 丁目 13-7-202

販売元

開発元